



# HANA 奥武蔵の花

施設隣接型小中一貫校 奥武蔵創造学園

飯能市立奥武蔵中学校  
学校だより 第10号

令和4年12月23日

校長 安田 孝之

## これから、これからです！！

2学期は小学校と合同で活動する機会をたくさん実現することができました。さらに、生徒会と小学校代表委員会との交流が昨年度以上に深まったのも収穫でした。

小中一貫校の看板を掲げてから4年目。これまで多くの方々の関心を集めてきましたが、なかなか看板どおりとならないのが実情です。コロナ禍という弁解もできますが、一番の要因は教育活動に取り組む主体（教員）が小中一貫校の具体的なイメージを持ちにくかった点と指摘できます。これは校長の失策です。私は、自校の方向性を明確に示す中で組織としてどのように職員が考え、活動すべきかを具体的に示さなければならぬと実感しました。そこで、組織内のキャップとなる主任が率先して小中一貫校としての形づくりを行うことを試みました。学習課題、生徒指導、学校行事等で担当主任が企画立案し、周りの教職員がその考えを支持して生徒の行動へ反映させるように指導を行う流れを作っていました。私は、学年主任からの「まずは、やってみましょう」の言葉にとっても勇気づけられました。

生徒へ目を転じると、各学年とも自分自身で考えて行動する点では成長を見ることができました。3年生は、体育祭を創り上げるために後輩をリードしていくことで、今までにない経験をしたと思います。2年生は、先輩の背中を追ってきた経験を生かして率先して頑張る様子を随所で見ることができます。そして1年生の多くは、新人戦の頃を境に体つきも気持ちも中学生らしくなり、言葉遣いのひとつにも成長を実感させられます。

### HANAことば

小規模特認校制度が本校にも適用されて4年目。見学者は年々増えており、またその3割が申請につながっています。

地域外の方々の本校への期待はとても理解できます。大切なのは期待に応え、その役割を果たしつつ、新たなニーズに応えること。そのためには、PTA並びに後援会、学校運営協議会の力は不可欠です。意見を交わすなかで、みんなで今後の学校像を描いていきたいです。

教職員も生徒も大きく変容した2学期でした。今後も小さな学校の特色を生かして、一人ひとりが活躍できる場面を作っていきたいと考えます。そして、生徒も職員も日々の生活を通して、些細なことにも目を配り、気づき、感じる中で考え、自身の判断に基づいた行動が良い姿として表れることを願っています。特に生徒は、日々の行動の根っことなる自分自身の考えを持つことが必要です。この点には、教職員も同様の思いを持っています。着実に成長を遂げる生徒達。そして、教職員も小中学校間の交流を通じて奥武蔵創造学園の使命が見えてきたのではないかと思います。これからです！！

